

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

皇學館大学の地域課題学修活動 CLL活動の年度末報告会を開催しました

令和4年3月5日に皇學館大学の地域課題学修活動である、CLL活動の年度末報告会を開催いたしました。昨年はオンラインと対面のハイブリッド開催でしたが、本年は蔓延防止等重点措置の発出を考慮し、全面オンラインでの開催となりました。本年からは学生の正課の学びの集大成である卒業論文・研究について、地域志向のものについて発表する「地域志向卒業論文発表会」を次年度からの本格開催に向け、プレ開催しました。



写真：運営側の様子

学生は緊張しながらも、発表に臨みました。全面オンラインにて開催としました。



学生の司会によりスタートした報告会は、学内外からの参観者の方とともに、盛況に開催されました。総勢54名がオンラインで参加し、8グループが口頭発表を、またGoogle jamboardというシステムを利用したポスターの部では12グループが発表を行いました。口頭発表の部において最も会場から共感を集めたグループに贈られる「活動報告オーディエンス賞」には、若年者の投票率アップに取り組む「若者の投票率UP!プロジェクト」が選ばれ、河野学長より表彰されました。

地域志向卒業論文発表会では「我が国のワーケーションの現状と課題について」「齋宮女御徹子女王の生涯と和歌」の2題が報告され、関連市町の職員の方から質問が寄せられていました。講義科目「伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ・Ⅱ」の最終レポートについて、ゲストスピーカーにより選出された「優秀レポート賞」も発表され、12名が表彰されました。アンケートでは、多くの参加者が「報告内容について」「進行について」「よかった・ややよかった」と回答するなど、好意的な評価をいただくことができました。

今回は、正課の学び（卒業論文発表、講義科目の優秀レポート表彰）と正課外（CLL活動）の学びの報告を同時に行い、学年を縦断した学生が参観することにより、身近なロールモデルとしての先輩の学びの発表に触れることができました。

3年次学生からは「卒業論文のイメージができた」とのコメントも聞かれました。今後も、総合的な地域課題学修の発表の場となるように充実させていきたいと思います。

（皇學館大学教育開発センター副センター長・
地域課題学修支援室長 池山敦先生）

三重創生ファンタジスタオリジナル科目 「三重の歴史と文化」が開講しました

日本理解特殊講義（三重の歴史と文化）の講義が始まりました。オムニバス形式で各回事前学習（個人・グループワーク）と本講義のセットで外部の先生方にゲストスピーカーとして登壇していただきます。

履修者は5月末現在で82名（人文学部20名、教育学部5名、医学部24名、工学部15名、生物資源学部18名）。ハイブリッド型講義（対面・オンライン）で開始しました。

松田茜学芸員（齋宮歴史博物館）：齋宮の歴史について
雲井純先生（三重大学）：三重の歴史の変遷と地理的特色
太田光俊学芸員（三重県総合博物館）：

歴史学からみる三重の「食」
板井正斉先生（皇學館大学）：伊勢神宮とお伊勢参り
竹川裕久氏（松阪市観光協会）：

江戸時代における伊勢商人の活躍
山田雄司先生（三重大学）：忍者の歴史と文化
伊藤文彦氏（三重県庁）：

熊野地域を中心とした歴史・文化・観光

5月18日（水）は、三重県立総合博物館（MieMu）学芸員の太田氏より、伊勢滞在でどのような食が出たのかが分かる史料：伊勢太々神楽講図絵を再現したものも写真で紹介していただきました。



写真：講義の様子①

2年ぶりの対面形式による講義で、ゲストも学生も少し緊張気味？！

写真：講義の様子②

京都と江戸から続く道が交わる地点が江戸橋であったとのこと。学生からは感嘆の声が・・・



学生の声：

太田さんによる授業はそれぞれの根拠や視点がしっかりしていて、かつ面白さを加える体験談もお話されていて、聞いていて非常にわかりやすく引き込まれましたし、今後参考にしていきたいと思いました（三重大学人文学部1年）。

今回の講義は歴史的な観点から三重の特産品について考えており、当時の人々や店舗、社会の様子などについても話されていて面白かった（三重大学医学部1年）。

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

尾鷲市天満浦で、看板復旧アートプロジェクトに参加しています。

尾鷲市で行っている学生主体の活動をご紹介します。5/2-3のゴールデンウィークに尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合に行き、木についてのお話や後を継いだ理由、尾鷲についてなどさまざまなお話を聞かせていただきました。看板作りの試作品用にいくつか木材をいただき、絵を描きやすいように表面をやすりがけをしてもらいました。



写真：製材所の様子

現場の方から話を聞き、木材を分けていただきました。午後1時間ほどかけて看板があるところを歩いて見て、大きさや設置位置などの確認に行きました。本企画には尾鷲市NPO法人おわせ暮らしサポートセンター、尾鷲市水産農林課、三重大学東紀州サテライトの支援をいただいています。



写真左「まあ、見てくれい」、写真右「甘夏みかんの里」
これらの看板をアートの力で復旧します。

学生の声：

看板の材料として、尾鷲の名産である尾鷲ヒノキの木材を頂きました。とても癒される香りで、ホームセンターの木とはひと味違う上質さを感じました。地元の名産を使い、地域の人々の力を借りながら、看板完成に向けて頑張っていきたいと思います！（三重大学教育学部2年）

前期 集中講義日本理解特殊講義 「医療健康福祉実践」が開講します。

三重創生ファンタジスタオリジナル科目である前期集中講義「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」では、三重県の重点課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地（離島）医療の観点からフィールドワークを含めたオンライン形式による学修を行います（担当：三重大学 志垣先生）。履修者は5月末現在で5名（三重大学4名、鈴鹿医療科学大学1名）。

- ・6月19日（土）
オリエンテーション
暮らしの保健室（マギーズ東京 秋山正子先生）
三重県の医療健康福祉（鈴鹿医療科学大学 河尻純平先生）
魅せるプレゼン（株式会社エックスラボ 藤勝行氏）
グループワーク他
- ・7月9日（土）
空飛ぶクルマを活用した地域課題の解決
（三重県デジタル社会推進局）
地方の孤立・生活支援（志摩市社会福祉協議会）
- ・8月20日（土）・21日（日）尾鷲・熊野へ
フィールドワーク
案内人（俳人、紀南医師会会長 谷口智行先生）
拠点：三重大学東紀州サテライト 天満荘
- ・8月28日（土）
消防・救急活動（津市消防本部、志摩市消防本部）
三重県の救急医療（三重大学 今井寛先生）
- ・9月3日（金）
グループワーク、発表

学生の声（三重大学医学部医学科1年）：将来的に僻地医療に貢献することに関心があり履修することにしました。また東京出身で三重の事情に明るくないので、それぞれの地域の現場で活動されている方の生の声を聞けるのはありがたい貴重な機会と思っています。

お知らせ

三重県・三重大学では、県内の若者向けの防災情報の発信や地域の防災活動を支援する「みえ学生防災啓発サポーター」を募集しています。四日市大学鬼頭先生が当初から関わっている取組です。**募集締切は6月10日（金）**です。興味のある学生がいましたら、周知をお願い致します。

▶参照先URL：<https://www.midimic.jp/>

発行元：高等教育コンソーシアムみえ 事務局
連絡先：059-231-9969

下記の機関で三重創生ファンタジスタの養成をしています。

三重大学、四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、高田短期大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校、三重県

